新庁舎等建設に関する住民投票条例案

年表で整理しながら、住民投票にネットが反対の理由をお伝えします。

1994～

「第二庁舎の賃貸借契約」開始

契約当時は「暫定的な第二庁舎」のはずでした。しかし、30年後の現在もまだ契約は続き、累積した家賃等の総額は、昨年度まで約75.8億円にも上ります。

2011 3.

「新庁舎建設基本構想」を策定

「市民検討委員会」の答申、市民1万人アンケート、市民フォーラム、パブリックコメントなど様々な市民参加を経て、蛇の目ミシン工場跡地に新庁舎を建設する方針を定めました。

2013 1.

「小金井市新庁舎建設基本計画」を策定

1年8カ月、15回に渉り市民検討委員会で審議。パブリックコメントや市民フォーラムでの意見などより策定されました。この計画は新庁舎の基本理念であり、その機能や整備方針、敷地利用方針などは現状の設計にも活かされています。

2016 10.

前年末の市長選公約「6施設複合化」⇓「ゼロベース」「白紙撤回」に

2015年12月に当選した西岡市長の公約「6施設複合化」は、市議会での議論を経て「ゼロベース」「白紙撤回」に至りました。

2017 7.

「(仮)新福祉会館建設基本計画市民検討委員会」

庁舎建設予定地活用市民ワークショップでの意見も踏まえ、市は新福祉会館を庁舎と同じ敷地に建設する「(仮称)小金井市新福祉会館建設基本計画」を策定しました。

2018 3.

「(仮)新福祉会館建設基本計画」策定

2018～

「新庁舎・(仮)新福祉会館複合化整備方針」から事業者決定

2019 3.

基本設計開始

これをもとに「新庁舎・(仮)新福祉会館複合化整備方針」が示され、「公開プレゼンテーション」で事業者を決定し、2019年3月、ようやく基本設計に入りました。

コロナ禍で財政状況を懸念した議会が混迷

2019

市民ワークショップ等

設計業者決定後は、市民ワークショップ、こがねいミーティングを4回ずつ開催、また2020年2月、6回の市民説明会を開催しパブリックコメントも実施。

2020 2.

市民説明会⇓パブコメ

2020

コロナパンデミック、財政計画がない、浸水対策が必要となる、議会の決議、申し入れ

2021 11.

建設事業は中断

2021年11月、生活者ネットを含まない7会派16人が、「市民と議会の理解を得るまでの間、財政計画建築確認申請を行わないこと」を求める申し入れを行い、実質的に建設事業は中断しました。この間、建築資材が急激に高騰し、コストダウンがさらに難しい状況になりました。

2022 11.

市長選挙⇓事業再開方針

財政問題をクリアにした上での早期建設を公約に当選した白井新市長は、市財政の検討を行い、見通しは十分に成立すると判断しました。

2023

9項目の検証

市議会では再開の条件として現設計でコストダウンに資するかどうか、総免震化や広場面積の見直しなど、9項目の検証を求めました。

2023 10.

実施設計再開

●検証によって

コスト、設計期間、機能面等、いずれからも設計変更するだけのコスト削減効果は得られないとの結論が出たことから、2023年10月に実施設計が再開されました。

●住民投票のための条例案とは

市民団体が署名を持て提案した条例案は「現行案か、見直し案か」どちらが良いかを問うものです。しかしこの2つの案は成立した土台が全く異なります。公に選ばれた事業者が法的な根拠を持ち、議会での予算等の検証を経て、コストと時間をかけて作成した実施設計と、専門家を名乗る一市民による見直し案の単純比較は出来ません。仮に住民投票で「見直し案」が選ばれても、基本計画からやり直す、つまり白紙に戻すことになります。

●生活者ネットの、住民投票条例案に反対の理由

生活者ネットワークは、市民参加条例に基づく長年の市民参加の経過を尊重し、①現設計にゼロベースからやり直すだけの法的な問題や瑕疵が認められず、②議会で求めた9項目の検証も実施し、③やり直しには膨大な時間とコストがかかる、等を主な理由に、住民投票条例案に反対します。現設計でスケジュール通り速やかに建設を行うことが市民の利益にかなうと考えます。

生活者ネットワークはこれからも、「市民にとって何が最善か」を最優先に、事業の行方を注視していきます。

（田頭祐子）

市議からのメッセージ

市議会議員　安田けいこ

「香害ってなあに？」パネル展を開催しました

7月12日～14日　於・小金井　宮地楽器ホール

柔軟仕上げ剤等に含まれる香料成分により、頭痛、めまい、吐き気、胃腸症状などが引き起こされる「香害」。生活者ネットワークは「香害は健康被害」として行政に対応を求め、「香りのマナー」ポスター掲示の実現など少しずつ理解が進んでいますが、まだまだ不十分です。

そんな状況の中、香害への理解を広げようと、超党派の市議会議員と市民で「香害パネル展」を開催しました。

パネル製作者は大阪在住の当事者で、X(旧Twitter)で香害について発信している「不安虫(ファンチュウ)」さん。親しみやすいキャラクターによる発信で、全国の当事者の共感を集めています。小金井では昨年11月に中央大学とコラボし開催されたパネル展で使われたパネルをそのままお借りし、当事者の声のお手紙と合わせて展示しました。来場者のコメントを掲示するコーナーを設け、香害を知らなかった方からは「勉強になった」、当事者の方からは「かなりつらいです」など、多数のコメントが寄せられました。

◀生活者ネットワークの議員も多数来場してくれました

開催期間の3日間スタッフが常駐し、延べ人数で290人ほどの方にご来場いただきました。香害に悩む当事者の方が遠方からも訪れてくれました。中でも印象的だったのは、涙ながらに不安な気持ちを吐露してくれた女性です。職場で対応を求めると「めんどくさいやつ」と思われ、一部無理解な人は使用をやめず、我慢するしかない日々で、「仕事は好きだけど続けられるかどうか常に不安。将来は生活保護かも」と思い詰めていました。身体的な症状に加えて周囲の無理解による精神面のダメージも相当大きく、人権問題だと感じました。

国及びメーカーには、商品に含まれる成分と身体症状との因果関係を明らかにし、成分表示を義務付けるなどの対応を求めていますが、動く気配がありません。小金井での取り組みをきっかけに、生活者ネットの議員を中心に香害パネル展が各地域に広がる動きが出ています。これからも議会を通して対応を求めるほか、市民への周知啓発を進めていきます。

市議目市民

七夕に願った都知事選

あれからそろそろひと月が経とうとしている。7月初め、ポスティングで町内を廻り、スタンディングに駅頭へ通い、SNSで会ったこともない「仲間」と互いに自分の「選挙活動」のやり方を紹介し合った。大きく「R」とプリントしたカードを鞄につけて電車に乗ったら、別の駅からも「R」のカードを掲げて乗ってきた人がいて、「同志」のようにそっと目で合図を送り合ったのも今では楽しい思い出だ。

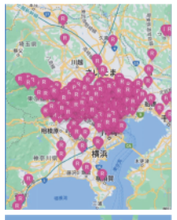
蓮舫氏支持者のSNSでの繋がりはあっという間に広がった。「一人街宣」「一人スタンディング」は誰からともなく自然発生的に始まった。そのエネルギーはもっと公正な政治への渇望が発露となったもの、と思う。

氏の政策で私が一番魅力感じたのは「若者支援」だ。東京は家賃を含めた物価が高い。若者の、殊に非正規で働く人たちの所得が上がる仕組みを都で実施すれば、それはやがて全国へ広がり国の少子化対策にも繋がる。街頭演説で氏の訴えを聞きながらふと隣を見ると、若い聴衆が目をキラキラと輝かせながら聞き入っていた。

開票結果は残念過ぎたが都知事選はいわば小選挙区一人区。途は険しかった。

それはそうとあの若い聴衆はどうしているだろう。こんな結果にやる気を失っているのではないかと気になってSNSを開いてみた。「一人街宣楽しかった！」「今回は残念だったけど一人街宣で方法があるのを知ることができた」「次もまたやりたい。」そんな呟きをたくさん見つけた。

「ごく普通」の有権者が能動的に、カジュアルに政治に関わるのが「ごく普通のこと」である時代が来たのかもしれない。（前原町前田）



▲『一人街宣マップ』ネット上の地図にそれぞれが自分の街宣した町へピンを立てていく。都内は600箇所以上にも上り、地方や海外にまで広がった。画像はX(旧Twitterより)